

特別養護老人ホーム
ケアポート玄海ユニット棟
運営規程

社会福祉法人 柏芳会記念福祉事業会

社会福祉法人 柏芳会記念福祉事業会
指定介護老人福祉施設
特別養護老人ホームケアポート玄海ユニット棟 運営規程

第1章 総 則

(規程の目的)

- 第 1 条 この規程は、社会福祉法人柏芳会記念福祉事業会（以下、「本会」という。）が老人福祉法第15条第4項の規定に基づく設置の認可を受け、介護保険法第86条第1項の規定に基づく指定を受けた特別養護老人ホームケアポート玄海ユニット棟（以下、「施設」という。）の運営に関する事項を定め、効果的な施設運営と入所者に対する適正な処遇を確保することを目的とする。

(施設の目的及び運営の方針)

- 第 2 条 施設は、施設サービス計画に基づき、可能な限り、居宅における生活の復帰を念頭に置いて、入浴、排泄、食事等の介護、相談及び援助、社会生活上の便宜の供与その他の日常生活の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話を行うことにより、入所者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにすることを目指すものとする。
- 2 施設は、入所者の意思及び人格を尊重し、常にその者の立場に立って指定介護福祉施設サービスを提供するように努めるものとする。
- 3 施設は、明るく家庭的な雰囲気を有し、地域や家族との結び付きを重視した運営を行い、市町村、居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、他の介護保険施設その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めるものとする。

(施設の名称等)

- 第 3 条 施設の名称及び所在地は、次のとおりとする。
- 一 名 称 特別養護老人ホームケアポート玄海ユニット棟
- 二 所在地 福岡県宗像市神湊118番地2

(入所定員)

- 第 4 条 施設の入所定員は30名とする。
- 2 ユニット数は3とし、ユニットごとの定員は10名とする。

(定員の遵守)

- 第 5 条 施設は、入所定員及び居室の定員を超えて入所させてはならないものとする。ただし、災害その他のやむを得ない事情がある場合は、この限りではない。

第 2 章 職員の職種、員数及び職務の内容

(従業員の職種及び員数)

- 第 6 条 施設に、次の職員を置くものとする。

(1) 施設長 (管理者)	1 名
(2) 医師 (嘱託)	1 名
(3) 生活相談員	1 名
(4) 看護職員	1 名
(5) 介護職員	15 名
(6) 栄養士	1 名
(7) 機能訓練指導員	1 名
(8) 介護支援専門員	1 名

- 2 前項に定めるもののほか、必要に応じ予算の範囲内でその他の職員を置く。

(職務の内容)

- 第 7 条 前条に掲げる職種の職務内容は、次のとおりとし、職員の具体的な業務分担については別に定める。

- (1) 施設長
理事会の決定する方針に従い、施設の運営管理を総括すること。
- (2) 医 師
入所者の診療と健康管理及び保健衛生の指導に関すること。
- (3) 生活相談員
入所者の生活相談、指導に関すること。
- (4) 看護職員
医師の指示による入所者の看護、保健衛生に関すること。
- (5) 介護職員
入所者の日常生活の介護に関すること。

(6) 栄養士

献立の作成、栄養の計算、食品の管理及び調理指導に関すること。

(7) 機能訓練指導員

入所者が日常生活を営むのに必要な機能の維持改善に関すること。

(8) 介護支援専門員

入所者の施設サービス計画の作成に関すること。

(勤務体制の確保等)

第 8 条 施設は、入所者に対し、適切な指定介護福祉施設サービスを提供することができるよう、職員の勤務の体制を定めるものとする。

2 施設は、当該施設によって指定介護福祉施設サービスを提供するものとする。ただし、入所者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りではない。

3 施設は、職員に対し、その資質の向上のために研修の機会を確保するものとする。

第 3 章 入所及び退所

(内容及び手続きの説明及び同意)

第 9 条 施設は、指定介護福祉施設サービスの提供に際しては、あらかじめ、入所申込者又はその家族に対し、運営規程の概要、職員の勤務体制その他の入所申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を記した文書を交付して説明を行い、当該提供の開始について文書により入所申込者の同意を得るものとする。

(受給資格等の確認)

第 10 条 施設は、指定介護福祉施設サービスの提供を求められた場合は、その者の提示する被保険者証によって、被保険者資格、要介護認定の有無及び要介護認定の有効期間を確かめるものとする。

2 施設は、前項の被保険者証に認定審査会意見が記載されているときは、当該認定審査会意見に配慮して、指定介護福祉施設サービスを提供するように努めるものとする。

(入退所)

- 第11条 施設は、身体上又は精神上著しい障害があるために常時介護を必要とし、かつ、居宅においてこれを受けることが困難な者に対し、指定介護福祉施設サービスを提供するものとする。
- 2 施設は、正当な理由なく、指定介護福祉施設サービスの提供を拒んではならないものとする。
 - 3 施設は、入所申込者が入院治療を必要とする場合その他入所申込者に対し自ら適切な便宜を供与することが困難である場合は、適切な病院若しくは診療所又は介護老人保健施設を紹介する等の適切な措置を速やかに講じるものとする。
 - 4 施設は、入所申込者の入所に際しては、その者の心身の状況、病歴等の把握に努めるものとする。
 - 5 施設は、入所者について、その心身の状況、その置かれている環境等に照らし、その者が居宅において日常生活を営むことができるかどうかを、生活相談員、介護職員、看護職員、介護支援専門員等の職員の間で検討するものとする。
 - 6 施設は、その心身の状況、その置かれている環境等に照らし、居宅において日常生活を営むことができると認められる入所者に対し、その者及びその家族の希望、その者が退所後に置かれることとなる環境等を勘案し、その者の円滑な退所のために必要な援助を行うものとする。
 - 7 施設は、入所者の退所に際しては、居宅介護支援事業者に対する情報の提供その他保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めるものとする。

(要介護認定の申請に係る援助)

- 第12条 施設は、入所の際に要介護認定を受けていない入所申込者について、要介護認定の申請が既に行われているかどうかを確認し、申請が行われていない場合は、入所申込者の意思を踏まえ、速やかに当該申請が行われるよう必要な援助を行うものとする。
- 2 施設は、要介護認定の更新の申請が遅くとも当該入所者が受けている要介護認定の有効期間の満了日の30日前には行われるよう必要な援助を行うものとする。

(入退所の記録の記載)

- 第13条 施設は、入所に際しては入所の年月日及び施設の名称を、退所に際しては退所の年月日を、当該者の被保険者証に記載するものとする。

(入所者の入院期間中の取扱い)

- 第14条 施設は、入所者について、病院又は診療所に入院する必要が生じた場合であつて、入院後概ね3月以内に退院することが明らかに見込まれるときは、その者及びその家族の希望等を勘案し、必要に応じて適切な便宜を供与するとともに、やむを得ない事情がある場合を除き、退院後再び当該施設に円滑に入所することができるようにするものとする。

第4章 施設サービスの内容

(施設サービス計画の作成)

- 第15条 施設サービス計画に関する業務を担当する介護支援専門員（以下、「計画担当介護支援専門員」という。）は、施設サービス計画の作成にあたっては、適切な方法により、入所者について、その有する能力、その置かれている環境等の評価を通じて入所者が現に抱える問題点を明らかにし、入所者が自立した日常生活を営むことができるように支援する上で解決すべき課題を把握するものとする。
- 2 計画担当介護支援専門員は、入所者及びその家族の希望、入所者について把握された解決すべき課題に基づき、当該入所者に対する指定介護福祉施設サービスの目標及びその達成時期、指定介護福祉施設サービスの内容、指定介護福祉施設サービスを提供する上で留意すべき事項等を記載した施設サービス計画の原案を作成するものとする。
 - 3 計画担当介護支援専門員は、施設サービス計画の原案について、入所者に対して説明し、同意を得るものとする。
 - 4 計画担当介護支援専門員は、施設サービス計画の作成後においても、指定介護福祉施設サービスの提供に当たる他の職員との連絡を継続的に行うことにより、施設サービス計画の実施状況の把握を行うとともに、入所者についての解決すべき課題の把握を行い、必要に応じて施設サービス計画の変更を行うものとする。
 - 5 第1項から第3項までの規定は、前項に規定する施設サービス計画の変更について準用する。

(施設サービスの取扱方針)

- 第16条 施設は、入所者について、その者の要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、その者の心身の状況等に応じて、その者の処遇を妥当適切に行うものとする。

- 2 指定介護福祉施設サービスの提供は、施設サービス計画に基づき、漫然かつ画一的なものとならないよう配慮して行うものとする。
- 3 施設の職員は、指定介護福祉施設サービスの提供に当たっては、懇切丁寧を旨とし、入所者又はその家族に対し、処遇上必要な事項について、理解しやすいように説明を行うものとする。
- 4 施設は、指定介護福祉施設サービスの提供に当たっては、当該入所者又は他の入所者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他入所者の行動を制限する行為を行わないものとする。
- 5 施設は、自らその提供する施設サービスの質の評価を行い、常にその改善を図るものとする。

(介 護)

- 第17条 介護は、入所者の自立の支援及び日常生活の充実に資するよう、入所者の心身の状況に応じて、適切な技術をもって行うものとする。
- 2 施設は、1週間に2回以上、適切な方法により、入所者を入浴させるものとする。ただし、医師の指示により入浴させることができない場合は、心身の清拭を行うものとする。
 - 3 施設は、入所者に対し、その身体の状況に応じて、適切な方法により、排泄の自立について必要な援助を行うものとする。
 - 4 施設は、おむつを使用せざるを得ない入所者については、適切に取り替えるものとする。
 - 5 施設は、入所者に対し、前各項に規定するもののほか、離床、着替え、整容等の介護を適切に行うものとする。
 - 6 施設は、入所者に対し、その負担により、施設の職員以外のものによる介護を受けさせてはならない。

(食事の提供)

- 第18条 食事の提供は、栄養並びに入所者の身体の状況及び嗜好を考慮したものとする。食事の時間は朝8時、昼12時、夕6時とする。
- 2 食事の提供は、入所者の自立の支援に配慮して、可能な限り、離床して食堂で行うよう努めるものとする。

(相談及び援助)

- 第19条 施設は、常に入所者の心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、入所者又はその家族に対し、その相談に適切に応じるとともに、必要な助言その他の援助を行うものとする。

(社会生活上の便宜の供与等)

- 第20条 施設は、教養娯楽設備等を備えるほか、適宜入所者のためのレクリエーション行事を行うものとする。
- 2 施設は、入所者が日常生活を営むのに必要な行政機関等に対する手続きについて、その者又はその家族において行うことが困難である場合は、その者の同意を得て、代わって行うものとする。
- 3 施設は、常に入所者の家族との連携を図るとともに、入所者とその家族との交流等の機会を確保するよう努めるものとする。

(機能訓練)

- 第21条 施設は、入所者に対し、その心身の状況等に応じて、日常生活を営むのに必要な機能を改善し、またはその減退を防止するための訓練を行うものとする。

(健康管理)

- 第22条 施設の医師又は看護職員は、常に入所者の健康の状況に注意し、必要に応じて健康保持のための適切な措置を講ずるものとする。

(衛生管理等)

- 第23条 施設は、入所者の使用する食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講ずるとともに、医薬品及び医療用具の管理を適正に行うものとする。
- 2 施設は、当該施設において感染症が発生し、又は蔓延しないように必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

(協力医療機関)

- 第24条 協力医療機関及び協力歯科医療機関は、次のとおりとする。

協力医療機関

医療機関の名称	宮城病院
所在地	福津市日蒔野5丁目12-2
診療科	内科・循環器科・整形外科・胃腸科・理学診療科・肝臓内科

医療機関の名称	蜂須賀病院
所在地	宗像市野坂 2 6 5 0
診療科	整形外科・脳神経外科

協力歯科医療機関

医療機関の名称	中島歯科医院（訪問診療も受け付けています。）
所在地	福津市津屋崎 3 丁目 1 1 - 2 2

第 5 章 利用料その他の費用

（利用料等の受領）

- 第 2 5 条 施設は、法定代理受領サービスに該当する指定介護福祉施設サービスを提供した際には、入所者から別表 1 に掲げる利用料の一部及び居住費、食費の支払を受けるものとする。ただし、入所者が利用料の減免の認定を受けているときは、その認定に基づく支払を受けるものとする。
- 2 施設は、前項に定めるもののほか、別表 2 に掲げるその他費用の支払を受けることができる。
 - 3 施設は、前項に掲げる費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、入所者又はその家族に対し、当該サービスの内容及び費用について説明を行い、入所者の同意を得るものとする。

（保険給付の請求のための証明書の交付）

- 第 2 6 条 施設は、法定代理受領サービスに該当しない指定介護福祉施設サービスに係る費用の支払を受けた場合は、その提供した施設サービスの内容、費用の額その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書を入所者に対して交付するものとする。

第 6 章 施設利用に当たっての留意事項

（留意事項）

- 第 2 7 条 入所者は次の事項を守らなければならない。

- (1) 職員の指導に従い、入所者相互の友愛と親和を保ち、日常生活において心身の安定を図るように努めること。
- (2) 施設及び居室の清潔、整頓その他環境衛生の保持のために協力するとともに、身の回りを整え、身体及び衣類の清潔に努めること。
- (3) 建物、備品及び貸与物品は大切に扱うよう努めること。
- (4) 火災予防上、次の点については特に注意を払い、火災予防に協力すること。
 - ア 喫煙は所定の場所で行うこと。
 - イ 発火の恐れのある物品は、施設内に持ち込まないこと。
 - ウ 火災予防上、危険を感じた場合は、直ちに職員に連絡すること。
- (5) 飲酒は、施設長が定めた時間と場所で行うこと。

(面 会)

- 第28条 入所者に面会しようとする外来者は、続柄、用件等を施設長に申し出て、その注意事項に従い、面会しなければならない。

(外出・外泊)

- 第29条 入所者が外出又は外泊を希望するときは、事前に施設長に届け出なければならない。

(健康保持)

- 第30条 入所者は、努めて健康に留意し、特別な事由がない限り、施設で行う健康診断、医療を受けなければならない。

(身上変更の届出)

- 第31条 入所者は、身上に関する重要な事項に変更が生じたときは、速やかに施設長に届け出なければならない。

第7章 非常災害対策

(非常災害対策)

- 第32条 施設は、非常防止と入所者の安全を図るため、別に定める防災に関する規程に基づき、常に入所者の安全確保に努めるとともに、非常災害に備えるため、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行うものとする。

第8章 その他施設運営に関する重要事項

(揭示)

- 第33条 施設は、当該施設の見やすい場所に、運営規程の概要、職員の勤務の体制、協力病院、利用料その他のサービスの選択に資すると認められる重要事項を揭示するものとする。

(秘密保持等)

- 第34条 施設の職員又は職員であった者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た入所者又はその家族の秘密を漏らしてはならない。
- 2 施設は、居宅支援事業者等に対して、入所者に関する情報を提供する際には、あらかじめ文書により入所者の同意を得るものとする。

(利益供与等の禁止)

- 第35条 施設は、居宅介護支援事業者又はその職員に対し、要介護被保険者に施設を紹介することの対償として、金品その他の財産上の利益を供与しないものとする。
- 2 施設は、居宅介護支援事業者又はその職員から、施設からの退所者を紹介することの対償として、金品その他の財産上の利益を収受しないものとする。

(苦情処理)

- 第36条 施設は、その提供した指定介護福祉施設サービスに関する入所者からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情処理解決責任者、苦情処理受付担当者及び第三者委員を設置するものとする。
- 2 施設は、その提供した施設サービスに関し、市町村が行う文書その他の物件の提供若しくは提示の求め又は市町村の職員からの質問若しくは照会に応じ、利用者からの苦情に関して市町村が行う調査に協力するとともに、市町村から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行うものとする。
- 3 施設は、その提供した施設サービスに関する入所者からの苦情に関して、国民健康保険団体連合会が行う調査に協力するとともに、国民健康保険団体連合会から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行うものとする。

(地域との連携)

第37条 施設は、その運営に当たっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流に努めるものとする。

(事故発生時の対応)

第38条 施設は、入所者に対する指定介護福祉施設サービスの提供により事故が発生した場合は、速やかに市町村、入所者の家族等に連絡を行うとともに、必要な措置を講ずるものとする。

- 2 施設は、入所者に対する指定介護福祉施設サービスの提供により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行うものとする。

(入所者に関する市町村への通知)

第39条 施設は、入所者が次の各号のいずれかに該当する場合は、遅滞なく、意見を付してその旨を市町村に通知するものとする。

- (1) 正当な理由なしに指定介護福祉施設サービスの利用に関する指示に従わないことにより、要介護状態の程度を増進させたと認められるとき。
- (2) 偽りその他の不正の行為によって保険給付を受け、又は受けようとしたとき。

(記録の整備)

第40条 施設は、従業者、設備、会計又は入所者に対する施設サービスの提供に関する記録を整備し、保存しておくものとする。

(1) 管理に関する記録

- ア 事業日誌
- イ 沿革に関する日誌
- ウ 職員の勤務状況、給与等に関する記録
- エ 定款及び施設運営に必要な諸規程
- オ 重要な会議に関する記録
- カ 月間及び年間の事業計画及び事業実施状況表
- キ 関係官署に対する報告書等の文書綴

(2) 入所者に関する記録

- ア 入所者台帳
- イ 施設サービス計画書
- ウ 処遇日誌

- エ 献立その他給食に関する記録
 - オ 入所者の健康管理に関する記録
 - カ 緊急やむを得ない場合に行った身体的拘束等に関する記録
- (3) 会計に関する記録

(身体拘束)

- 第41条 施設は、当該入所者又は他の入所者等の生命又は身体を保護するため「緊急やむを得ない場合」を除き、身体拘束その他入所者の行動を制限する行為を行ってはならない。
- 2 「緊急やむを得ない場合」の判断は、切迫性、非代替性、一時性の3点を考慮に入れた上で、施設で設置する身体拘束廃止委員会において行う。
 - 3 緊急やむを得ず身体拘束を行う場合には、当該入所者や家族に対して身体拘束の内容、目的、理由、拘束の時間、時間帯、期間等をできる限り詳細に説明し、十分な理解を得るように努めなければならない。
 - 4 前項の手続きを踏まえて身体拘束を行った場合、施設はその様態及び時間、その際の当該入所者の心身の状況、緊急やむを得なかった理由を記録するとともに、入所者及び家族に随時説明しなければならない。
 - 5 身体拘束を実施した場合でも、「緊急やむを得ない場合」に該当するかどうかを常に観察、再検討し、該当しなくなった場合には直ちに解除の対応を行うものとする。

(補 則)

- 第42条 この規程に定めるもののほか、必要な事項については別に定める。

●附則

この規程は、平成27年 4月 1日から施行する。

●附則

この規程は、平成27年12月 1日から施行する。

●附則

この規程は、平成29年 4月 1日から施行する。

●附則

この規程は、平成30年 4月 1日から施行する。

●附則

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

●附則

この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

●附則

この規程は、令和 6 年 8 月 1 日から施行する。

別表 1（第 25 条第 1 項関係）

1. 利用料（1 日につき）

2. 加算利用料（1 日につき）

（サービスの利用料金は、利用者様の要介護度に応じて異なります。）

要介護度	1	2	3	4	5
経過のユニット型小規模 介護福祉施設サービス費（Ⅰ）	768円	836円	910円	977円	1,043円
日常生活継続支援加算（Ⅱ）	46円	46円	46円	46円	46円
看護体制加算（Ⅰ）ロ	4円	4円	4円	4円	4円
夜勤職員配置加算（Ⅱ）ロ	18円	18円	18円	18円	18円
栄養マネジメント加算	0円	0円	0円	0円	0円
1 日あたりの利用者負担額	836円	904円	978円	1,045円	1,111円
介護職員等処遇改善加算（Ⅰ） （注）	（1 月につき + <u>所定単位</u> × 140 / 1000）				

（注） 【所定単位・・・所定単位数にサービス別加算率を乗じた単位数を算定した単位数の合計】

【各加算について】

ご契約者のご要望及び状態により、日常生活継続支援、看護体制、夜間職員配置加算の対応をいたします。但し、これらの対応に関しましては別途費用を申し受けます。尚、初期及び入院、外泊時には加算が発生いたしますので予めご了承下さい。

・日常生活継続支援加算（Ⅱ） 46 単位／日

入所者の要介護度 4 から 5 の割合が 65%以上又は、認知症日常生活自立度Ⅲ以上の割合が 60%以上と成り、且つ、介護福祉士の資格を有する職員を入所者 6 人に対して 1 名以上配置する体制が整った場合に算定いたします。

～看護体制に係わる加算～

・看護体制加算（Ⅰ）ロ 4 単位／日

常勤の看護師を 1 名以上配置した場合に算定いたします。

～夜勤職員の配置に係わる加算～

・夜勤職員配置加算（Ⅱ）ロ 18単位／日

1. ユニット型介護福祉施設サービス費又は経過的小規模介護福祉サービス費を算定していること。
2. 入所定員が30人又は51人以上であること。
3. 厚生労働省が定める基準に規定する夜勤を行う介護職員又は看護職員の数が、夜勤を行う介護職員又は看護職員の数に1を加えた数以上の数の介護職員又は看護職員を配置する体制が整った場合に算定いたします。

～栄養マネジメントに関わる加算～

・栄養マネジメント加算 0単位／日

当該事業所に常勤の管理栄養士を1名以上配置し、その他の職種の者と共同して入所者ごとの食形態に配慮した栄養ケア計画を作成し、その計画に基づく栄養管理を行うと共に、栄養状態を定期的に記録し、必要に応じて当該計画を見直す体制が整った場合に算定いたします。

・初期加算 30単位／日

入所した日から起算して30日以内の期間については、初期加算として、1日につき所定単位数を加算する。30日を超える病院又は診療所への入院後に指定の介護老人福祉施設に再び入所した場合も同様とする。

●入院又は外泊をされた際の自己負担額

○6日以内の入院又は外泊の場合

自己負担額（1日あたり）	246円
--------------	------

○7日以上入院又は外泊の場合

自己負担額（1日あたり）	2,066円
--------------	--------

●新規入所又は30日を超えた入院後に再入所された際の加算額（初期加算）

1日あたりの利用者自己負担額に加算される額	30円
-----------------------	-----

【共通の注意事項】

※令和6年度介護報酬改定における『介護職員等処遇改善加算』のサービス別加算率（140／1000）については、厚生労働省が設定した割合【14.0％】となっております。

《加算の仕組み》

介護職員等処遇改善加算 = （1月あたりの総単位数） × （サービス別加算率）

※介護職員等処遇改善加算は区分支給限度基準額の算定対象外

総単位数 = （サービス別基本サービス費） + （各種加減算）

※区分支給限度基準額の算定対象

○介護保険制度の改正及び当施設のサービス提供に係る体制の変更によって介護保険給付額に変更があった場合、変更された額に合わせて自己負担額が変更になる場合がありますので、予めご了承下さい。

○居住費・食費は、介護保険のサービスに含まれておりません（介護保険給付の対象外）ですのでご注意ください。

介護保険の給付対象とならないサービス

以下のサービスは、利用料金の全額がご契約者の負担となります。

＜介護保険給付対象外サービスの概要と利用料金＞

① 食費（1日あたり）

食材料費及び調理費について実費相当額の範囲内にて負担していただきます。ただし、介護保険負担限度額認定証の発行を受けている方につきましては、その認定証に記載された食費の金額のご負担となります。

	1日あたり	1ヵ月あたり (30日)
・利用者負担第4段階 本人の年金収入額＋その他の合計所得金額が266万円以上の方	1,500円	45,000円
・利用者負担第3段階② 本人の年金収入額＋その他の合計所得金額が年額120万円超かつ、預貯金等の合計が500万円（夫婦は1,500万円）以下の方	1,360円	40,800円
・利用者負担第3段階① 本人の年金収入額＋その他の合計所得金額が年額80万円超120万円以下かつ、預貯金等の合計が550万円（夫婦は1,550万円）以下の方	650円	19,500円
・利用者負担第2段階 世帯の全員（世帯を分離している配偶者を含む）が市民税非課税 本人の年金収入額＋その他の合計所得金額が年額80万円以下かつ、 預貯金等の合計が650万円（夫婦は1,650万円）以下の方	390円	11,700円
・利用者負担第1段階 生活保護受給者の方	300円	9,000円

② 居住費

当施設はユニット型特別養護老人ホームとして基準を満たしております。

つきましては居住費といたしまして別途ご費用の負担をお願いいたします。

ただし、介護保険負担限度額認定証の発行を受けている方につきましては、その認定証に記載された居住費の金額のご負担となります。

	1日あたり	1ヵ月あたり (30日)
・利用者負担第4段階 本人の年金収入額＋その他の合計所得金額が266万円以上の方	2,066円	61,980円
・利用者負担第3段階② 本人の年金収入額＋その他の合計所得金額が年額120万円超かつ、預貯金等の合計が500万円（夫婦は1,500万円）以下の方	1,370円	41,100円
・利用者負担第3段階① 本人の年金収入額＋その他の合計所得金額が年額80万円超120万円以下かつ、預貯金等の合計が550万円（夫婦は1,550万円）以下の方	1,370円	41,100円
・利用者負担第2段階 世帯の全員（世帯を分離している配偶者を含む）が市民税非課税 本人の年金収入額＋その他の合計所得金額が年額80万円以下かつ、 預貯金等の合計が650万円（夫婦は1,650万円）以下の方	880円	26,400円
・利用者負担第1段階 生活保護受給者の方	880円	26,400円

2. 入院又は外泊をした場合の負担額（1日につき）

入院又は外泊期間	利用料	入所者負担額
6日以内	2,460円	246円

（注）但し、入院又は外泊の初日及び最終日は上記1の負担額となる。

別表 2（第 25 条第 2 項関係）

その他の費用

内 容	入所者負担額
インフルエンザ予防接種	薬液費実費
理 美 容 代	実 費
クリーニング（取次）	実 費
遠隔地受診のガソリン代	1 k m 当たり 2 2 円
レクリエーション、クラブ活動に用いる材料等	実 費
日用品、嗜好品等でその他入所者が希望するもの	実 費